

千葉大学医学部同窓会報 第97号

題字 鈴木五郎

編集兼発行者

千葉大学医学部

みのはな同窓会報編集部

〒280 千葉市亥鼻1-8-1

千葉大学医学部内

みのはな同窓会

電話千葉 (0472) 22-7171内線2038

医学部長就任の挨拶

肺癌研究施設病理研究部門教授

林 豊 (昭25専卒)

昨年八月一日付で医学部長に就任いたしました。村山前医学部長のあとを引き継ぎ、第二十代目の医学部長として誠心誠意と努めてまいりますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。



平成二年度

みのはな同窓会開催

望まれる若手の参加

本医学部の周囲に眼を転じますと、県内にいくつかの医学部や大きい医療機関が新設されつつあります。その中であつて、私どもは孤島を守る事なく、それらの施設

をも活躍の場とさせて頂くために格別の努力を払うべきであると存じます。その他、大学の国際化は近年、とくに重視されておりますが、慎重に対応して行く所存でございます。

いずれにしても、色々の問題につき、学部構成員の意見をうかがい、難問であればその旨を訴え、事を進めたいと思ひます。歴史にみます項羽よりも劉邦を師としたい気持ちであります。同窓会の諸先生方のご指導とご力添えを心からお願ひ申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

二十世紀を前にして、千葉大学医学部の良き伝統を重んじつつ、私どもは学部の将来像について懸命に考えて行かなければなりません。医学部が学術の中心である発想よりも、まず、社会的な期待と要請に応え、公共的な寄与に尽すべき事が求められている現状の認識を要します。

学内におきましては、当面、カリキュラムの検討が大きな課題となつてくると思われませんが、その検討には努力と根気と時間が必要であります。縮詰めの教科目の中に、先端医療に関する事柄も出て来ただけ多く加えられるべきであります。近い将来、医療法規や経済についてまでも選択して学ぶことが出来る機会をえたいもので

平成二年度のみのはな同窓会総会は、昨年六月三十日(土)午後三時半より、千葉市内ほいで家で開催された。井出源四郎副会長の司会です。村山智常理事の学内近況報告と岡本昭二常任理事の会務報告があつた。学内報告では、医学部における小児外科講座の新設と学生定員の百二十名から百名への削減、教養部の改組問題その他がとりあげられた。

次に、総会当日までの過去一年間の物故会員五十三名に対し、一同心よりの黙祷を捧げた。その後、懇事に入り、平成元年度決算と二年度予算案が可決された。なお、総会と理事会の運営方法に関する活発な議論もあり、会員による運営改善の提案が提出さ



総会・懇親会風景

祝 平成二年度叙勲表彰

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 勲五等瑞宝章 | 加瀬 幸雄 (昭和22年卒) |
| 勲七等青色銅葉章 | 田中 実 (昭和22年卒) |
| 勲五等双光旭日章 | 長谷川英夫 (昭和10年卒) |
| 勲五等双光旭日章 | 北村 英吾 (昭和12年卒) |
| 藍綬褒章 | 渡辺 武 (昭和27年卒) |
| 厚生大臣表彰 | 三橋 稔 (昭和35年卒) |
| 第一八回医療功労賞 | 小西 善磨 (昭和18年専卒) |
| 警察協力賞 | 斎藤 佐文 (昭和25年専卒) |
| 千葉県秋の褒賞 保健衛生功労による木村授与 | 西沢英三郎 (昭和17年卒) |
| 千葉県功労者表彰 (教育) | 石橋 文太 (昭和22年卒) |
| 千葉県功労者表彰 (学校保健) | 郡司 昭男 (昭和24年卒) |

川崎 富作先生 (昭23専卒)

日本学士院賞に輝く

日本学士院では平成三年三月十一日の総会で平成三年度の学士院賞を決定したが、九人の受賞者のうちの一人に「川崎崎の診断法の確立、治療および疫学に関する研究」の題目で川崎富作先生が選ばれた。授賞式は来る六月上旬。心よりの祝意をこめて速報する。

速報欄

金子敏郎教授

(耳鼻咽喉科・昭28卒)

附属病院院長に就任

(平成3年4月1日付け)

就任のご挨拶は次号に掲載予定

遅刊を深くお詫

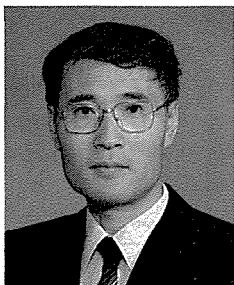
び致します。

新任教授紹介

故石川清文教授の後任に金沢医科大学の能川浩二教授
(金沢大学医学部御出身) が着任。停年退官された中島、
降矢両名誉教授の後任にはそれぞれ新美、米満両助教
が昇格、教授になりました。

就任の御挨拶

千葉大学医学部衛生学講座教授
能川 浩二 (金沢大・昭40卒)



昭和63年3月御退官の石川清文
前教授の後任として元年7月1日
付で衛生学講座の教授に就任致し
ました。衛生学講座は、初代松村
教授が大正12年に創設されて以来
私で6代を数える伝統ある教室で
あり、大変光栄に存じますと共に
その責任の重大さを痛感してお
ります。私は昭和40年金沢大学医
学部を卒業後、恩師である石崎有
信教授の下で、環境衛生学、労働
衛生学を中心に研究を行なってい
ました。大学院入学当時は、石崎
教授はカドミウムの健康影響、特
に「イタイイタイ病」の研究に教
室をあげて取り組んでおられ、私
もその一員として参加させて頂き、
今日までカドミウムを中心とした

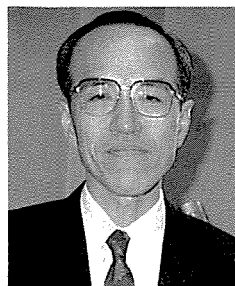
微量元素の健康影響について研究
を続けております。また石崎教授
が御退官後、金沢医科大学教授に
就任されると同時に私も同大学へ
移り、10年間約8千人の労働現場
の健康管理を中心とした仕事を継
続してきました。衛生学は「生命
を衛る」科学であり、近年の健康
ブームのなかでは、その中心的役
割を果すべき位置にあると思いま
す。しかし、若い医師の関心は衛
生学のような社会医学の方に向い
ているとは申せません。医学のな
かで、衛生学の果たすべき役割を
明確にし、若手研究者に興味をも
たれる教室にするよう努力してい
と思っております。

石川前教授は、日本の産業医学
の中心的存在として御活躍され、
千葉大学衛生学の伝統を守り、育
てられました。微力ではありますが
が、教室の伝統を守るべく、努め
る所存でございます。同窓会の皆
様の御指導、御鞭撻を心より御願
い申し上げます。

◇ ◇ ◇

教授就任にあたって

千葉大学医学部小児科学講座教授
新美 仁 男 (昭33卒)



このたび、千葉大学小児科学講
座を担当することになりました。
八十年以上にあたり小児科学
の泰斗である諸先生方が主宰され
た伝統ある教室を引き継ぐこと
になり、その責任の重大さを痛感
しております。

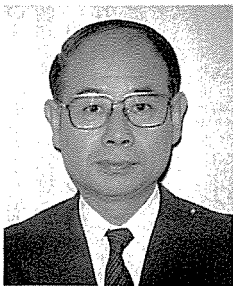
かえりみますと、昭和三十四年
小児科学教室に大学院生として入
り、当時の故佐々木哲九教授のも
とで医師としての修業をはじめま
した。それから三十年の間、久保
政次名誉教授、中島博徳名誉教授
をはじめ、多くの方々の指導を
受けてまいりました。この機会に
あらためて感謝申し上げます。

小児科学も内科学と同じように、
時代とともに専門分化が進んでき
ました。この様な流れに伴って
小児全般をみる包括的医療の重要
性はますます高まっているように
思います。この問題の解決は容易
なことではありませんが、教室内
外が互いに協力し合うことによっ
て、解決の道がひらけるものと思
っています。

卒前、卒後の臨床教育、診療の

教授就任にあたって

千葉大学医学部附属病院検査部教授
米満 博 (群馬大・昭35卒)



元年三月末に定年退官された降
矢教授の後任として、九月一日
付けをもって検査部教授に就任致
しました。大変光栄に存じますと
同時に、その責任の重さを痛感し
ております。

顧みますと、昭和三十六年に本
学第一内科学教室に入局させてい
ただき、三輪清三教授、次いで奥
田邦雄教授より二十三年間の長き

あのはな会だより

九州あのはな会

元年七月十六日、第六回九州あ
のはな会をホテルニューオータニ
福岡で行いましたのでご報告申し
上げます。

吉田学長先生の御臨席をいただ
き、いろいろと母校のお話を会員
一同感謝申し上げた次第です。
よかトビアをチャラッと見て楽し
い一日でありました。

九州は千葉から離れており、疎
遠になりがちでありますので、母

にわたり御指導を受けました。さ
らに昭和五十九年四月には検査部
に転じ、降矢教授より検査学につ
いての手ほどきをしていただきま
した。またこの間に多くの方々か
ら、多方面にわたり御指導をいた
だきました。あらためて御礼申し
上げます。

本学の検査部は昭和四十一年に
創設され、初代の教授に降矢先生
が就任されました。文字通り零
からの出発でしたが、降矢教授
の卓越した運営手腕により次第
に内容が充実し、現在の近代的な
検査室が出来上ったわけです。
機械工学や電子工学の発達に伴
う自動化機器の開発、酵素免疫法
をはじめとする検査法の長足の進
歩など、検査医学の流れは速く、
この中であって検査部の進む道を
如何に正しく方向づけるか、限
られた人員と予算の中で診療科の
要望にどのように応えていくか等
々与えられた課題は多数あります。
今後は診療科の先生方とも関係を
密にして部員一同と共にその責務
を果していきたくと考えておりま
す。一層の御指導と御支援を願
います。次第です。

九州あのはな会
会長 古寺 秀喜



クラス会だより

昭四会クラス会

昭和八年卒業(昭四会)の同級生は、現在八名生存しているのみで、前後のクラスに比べて、消耗度が高い。入学は六十二名であったが、比較的早くから死亡者が多く出た。戦死者は二名である。毎年クラス会を開いているが、ここ二年ばかりは、四名が集まる



のみである。
他の生存者も、各々故障があったり出席出来ない模様である。
平成元年九月十七日(日)、千葉市京成ホテルでの会合も、夫妻合計八名であった。写真右より山崎勲、穴倉安衛、岡田長豊の各氏と小林金市とである。
懐旧談に花を咲かせてはいるものの、酒量は著しく減ってしまった。

た。

八十才を超えれば、矢張り、何れも、年は争われない。

来年は、茂原市在の古里村で開くことを決め、別れを惜んで散会した。

るのはな同窓会の、益々の発展を祈念する次第である。

(小林金市記)

昭19年卒クラス会

前年六月に引続き平成元年十一月四日(土)に挙行。今回は交通の便もよい都心であること、去る六月に急逝した峰 英二君を偲ぶ意味もあり、級全員四十二名中二十七名出席という盛会となった。会に先立ち、加納六郎君の御好意で、体調の都合で夜の会は欠席の後藤君をはじめ有志の諸君九名が東京医科歯科大学学長室に午後三時半頃から集まり歓談、加納学長から目下増築中の高層本館ビルについて説明を聞いた。一時間余を過ぎた。そしてここから歩いて五分の神田小川町の漢陽飯店の二階座敷が会場と

なり、五時過ぎに始められた。佐藤 洋君の司会で加納君の挨拶に引続き、峰君の葬儀に参加した早川・天谷両君から追悼の語があり、世話好きで朗らかだった同君の霊



一同黙禱を捧げた。最年長の八十五才になる田辺次郎君の乾杯の音頭を皮切りに次第に宴は盛り上がり、加納君推薦の上海蟹はじめ店自慢の北京料理や老酒に舌鼓をうち、遠路はるばる宮崎より参加の森下君はじめ、久方振りの顔も多く、一人づつ立ち上っての現況報告は尽きることなく、所定の三時間にはまたく間に過ぎ、名残りを惜しみつつ井出前学長の手じめを最後に漸く

なり、五時過ぎに始められた。佐藤 洋君の司会で加納君の挨拶に引続き、峰君の葬儀に参加した早川・天谷両君から追悼の語があり、世話好きで朗らかだった同君の霊

解散となった。

次回は平成三年、入学五十周年を期して千葉で開かれることに決定した。

(清水 衛(昭19卒)記)

春秋会

(昭和31年卒、開業医グループ)
平成元年十一月十八、十九日の両日、猪狩好令、神尾 鋭両君の設営で三浦半島を周遊した。



鎌倉の「吉亭」に集合し、美しい懐石料理で懇親会後、猪狩君の病院のマイクロボスで「観音崎急ホテル」に移動。この間の小一時間は李保君の道中珍案内や、志村君の四六のハーモニカの第九演奏などで盛り上がり、ホテルに着いても降りるのを嫌がる始末。それから単身参加者と若い奥さん組は横須賀まで遠征。われわれは同級生だから年令はほぼ同じだが、奥方はいろいろ。若い人妻に目が流れる。皆さん気が若い。

翌朝目が覚めたら、浦賀水道が眼前の風光明媚なホテル。だが、それから案内して貰った猪狩君が九年前に建てたパシフィックホスピタルは、海原が至近に迫り眺望の雄大な建築。一同感嘆の声。

観音崎、城ヶ島灯台を見物後、『逗子マリナ』で昼食。来年度の再会を楽しみに散会した。所々から懐かしの房総半島を望み見た旅であった。

前回まで夫人同伴者を愛妻組として別記したが、同伴を懇願する恐妻組が実態とやら。そこで今回からは参加者諸君を列記する。

小野清四郎、猪狩好令、神尾 鋭、五味淵一、大島一浩、志村公男、山口慶三、滝沢明祐、関光倫、李保文彦、上野恭一。夫人は六名。

(上野恭一(昭31卒)記)

さんろく会

昭和三十六年卒業生のクラス会さんろく会が四月十五日に、石和温泉の常磐ホテルで開催された。今回は甲府に在住の会員、塚原重雄(山梨医科大学教授)ならびに山角 博(山角病院院長)両君の尽力により会場が準備されたものだった。

卒業後二十八年ともなると、さすがにかつての紅顔、童顔も時の流れを感じさせる年輪を刻んでいるが、ホテルのロビーで顔を合わせた途端たちまち時間は学生時代に戻っている。
ひとたび宴が始まれば最近とみに減退した記憶力が嘘のように、



三十有余年前のあのエピソード、このエピソードが次々と湧きだすように脳裏に蘇り、それをまた全員が鮮やかに記憶にとどめている。語らひは夜の更けるまで尽きなかった。

翌十六日は二手に分かれ、一方のグループは山梨観光、他方、ゴルフ愛好グループはほど近い境川カントリークラブへ。

天気予報は前日から大雨を予告し続けていて一同おおいに気を揉んだが、甲州の空はこの日の天気予報を聞きもしたのか聞き流したのか、我々の頭上に思いもかけぬ青空を広げて歓迎してくれた。夫人同伴も含めてのゴルフは好プレー、珍プレー続出する中で和気あいあいのラウンドであった。

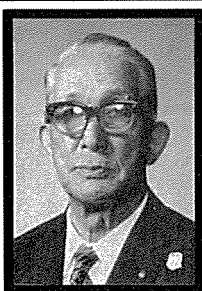
◆ (文責 松本 生)

千葉大学名誉教授

三輪清三先生を追悼して

大藤 正雄 (昭19卒)

恩師三輪清三先生には平成元年九月十八日、千葉大学病院にて、胃癌のため八十六才にて御永眠されました。先生は平素御壮健で身体の不調を訴えることはめったになかったのですがこの年夏の暑さの折、食欲が無く、疲れ易いなどの愁訴をもつようになり検査の結果胃癌に罹患していることが判りました。即刻八月二十八日に千葉大学病院に入院し療養に専念されたのですが、九月十八日に転移性肝癌から大量に腹腔内出血するという突発的事態となり、緊急手当の甲斐無く亡くなられたものであります。



先生は昭和六年に千葉医大を卒業され、直ちに第一内科教室に入局し当時の竹村教授、ついで後任の石川教授に師事されました。その後は国立千葉病院副院長を経て昭和三十一年に本学第一内科教授に就任し、昭和四十四年に退官されました。この間に千葉大学医学部付属病院長、同看護学校長を併任するなど大学の発展に尽力されました。なお、学外においては日本学術会議第七期会員を務め、第

四十八回日本消化器病学会総会会長、第二回日本癌治療学会総会会長、第十二回日本腎臓学会総会会長、その他数多くの学術研究集会の会長の責務を果され、消化器病を中心として腎臓、血液、神経、感染症など幅広い分野で学問の進歩、学術興隆に大きく貢献されました。また御退官後昭和四十六年より五十七年まで君津中央病院長の一職にあって地域医療の充実や医療行政の向上に力を尽されております。

先生は、現在の第一内科の各研究分野の基礎作りをされたわけですが、常に個人の創意を尊重し、自由な研究を推進されました。その結果次々と有為の人材が生れ育ち、門下から医学教育の教授職者が十指を超えるという状況であります。診療にあたつては細心の注意を以て患者を観察し、患者の立場で対処するよう指導され、「触心」という座右の言葉を私どもに教えてくれました。また、戦争中の苦しい体験を通して得た「最後まで最大の努力を尽す」の信条を内に固く秘めながらも豊かな趣味をこれに添え、悠々とした調和のとれた生き方は忙しい日々を送る私どもに多くの教えられる点がありました。折にふれて先生が示された御教訓は私どもの心の奥深くこれからも生きつづけるものと思えます。最後に先生の御業績の数々と御人柄を偲びながら心から御冥福をお祈り申し上げます。

千葉大学東洋医学研究会
創立五十周年記念行事

奥井 勝二 (昭28卒)

平成元年は千葉大学東洋医学研究会が発足して、50年に当り、平成元年10月14日(土)、千葉市中央のホテル、サンガーデンで約百名の来賓、OB、現部員が集合して、盛大な記念行事が行われた。

50年と一口に言っても幾多の困難があつたのは当然で、当時、東洋医学に関心のある人はきわめて少く、眼科の伊東教授も最初は相手を乗りこえ、奥田謙蔵氏の門を叩き、漢方特に古方の研究、研鑽を積み今日に至つた。奥田門下より後に漢方では指導的存在となられた和正氏(大學生理学教室出身)、伊藤清氏(昭和13年卒)、小倉重成氏(昭和17年卒・故人)等の存在が大きく、学生に対し自由講座を通して、指導的立場にあ

つたのが50年の歴史の重さとなつたことは確かである。当日は寺沢捷年氏(富山医科薬科大学和漢診療部昭和45年卒)の司会で、まず顧問教官奥井勝二氏の開会の辞、村山 智医学部長の祝辞が披露され、続いて藤平 健氏の「東医研の歩み」と題する講演があつた。50年の歴史を思い出す交えて話された。次に記念講演(1)として、原田正敏氏(国立衛生試験所生薬部長の「薬理学の知識で漢方処方理解するために」(2)として大塚恭男氏(北里東洋医学

つたのが50年の歴史の重さとなつたことは確かである。当日は寺沢捷年氏(富山医科薬科大学和漢診療部昭和45年卒)の司会で、まず顧問教官奥井勝二氏の開会の辞、村山 智医学部長の祝辞が披露され、続いて藤平 健氏の「東医研の歩み」と題する講演があつた。50年の歴史を思い出す交えて話された。次に記念講演(1)として、原田正敏氏(国立衛生試験所生薬部長の「薬理学の知識で漢方処方理解するために」(2)として大塚恭男氏(北里東洋医学

創立50周年記



人事異動

(平成元年7月1日以降)

教授昇任

能川浩二 (昭40金沢大卒)

齊藤 隆 (昭50東工大・理生学)

高次機能研・遺伝子情報分野

新美仁男 (昭33卒) 小児科学

米満 博 (昭40群馬大卒)

若新政史 (昭38卒)

卒後・生涯医学臨床研修部

植松貞夫 (昭35卒) 放射線部

総合研究所長の「東洋医学の現状とこれから」と題する記念講演があつた。いづれも感銘深いもので、特に大塚氏の講演は、これまで長い間多くの東洋医学に理解のあつた先人達との交友録をまじえ、これから東洋医学の進む方向を教示して下さいました。最後に現部員の桜井健一君の現在の東医研の活動の紹介があり、式典は終了した。

次いで場所を変え、懇親会に移り、小林龍男名誉教授、大谷克己名誉教授の祝辞、鍋谷欣市杏林大学教授(昭和27年卒・東医研OB)の乾杯で祝宴が開始された。会場狭しの〇〇余名の参加者で、旧交を温めたり、東医研の活躍状況など語り合い、極めて盛会で、有意義な会であつた。

なお記念事業として、千葉大学東洋医学50年史の編纂が現部員の努力で進められており、近々日の目を見る段階にある。

これからの東医研の発展を祈念し部員各位の活躍を願つて筆をおく。

~~~~~

安達元明 (昭38卒) 公衆衛生学  
野田公俊 (昭52東北・農卒)  
木内政寛 (昭39卒) 法医学  
木村定雄 (昭47阪大卒)  
高次機能研・高次神経分野  
(内定) 清野 清 (昭49神戸大卒)  
高次機能研・発達生理分野  
(他大学の教授へ昇任)  
中田瑛浩 (昭38卒)  
山形大学泌尿器科学  
富岡玖夫 (昭39卒)  
東邦大学(佐倉) 内科学

## 訃報

| 氏名             | 卒年     | 没年月日 |
|----------------|--------|------|
| 松井 牧次 (昭3)     | 昭62・12 | 25   |
| 中島 元徳 (昭3)     | 平1・10  | 28   |
| 三輪 清三 (昭6)     | 平1・9   | 18   |
| 渡辺 六郎 (昭10)    | 平1・9   | 18   |
| 福光 壽 (昭11)     | 平1・11  | 20   |
| 真野 鏡一 (昭13)    | 平1・10  | 25   |
| 水野 春江 (昭13)    | 平1・10  | 2    |
| 斎藤 昌久 (昭15)    | 平1・10  | 7    |
| 谷茂岡 隆 (昭15)    | 平1・11  | 4    |
| 青木 芳郎 (昭16・12) | 平1・11  | 16   |
| 天願 貞治 (昭16・12) | 平1・7   | 9    |
| 峰 英二 (昭19)     | 平1・6   | 6    |
| 原沢 寛 (昭20)     | 平1・9   | 24   |
| 小川 広昌 (昭22)    | 昭63・11 | 19   |
| 林原百合太 (昭24)    | 平1・6   | 27   |
| 永峯 文治 (昭24)    | 平1・9   | 18   |

## 助教昇任

|                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 川村 功 (昭43卒)     | 外科学第2 (のち他病院へ栄転) |
| 坂本尚志 (昭55旭川医大卒) | 生理学第2            |
| 木村 毅 (昭37弘前大卒)  | 眼科学              |
| 税所宏光 (昭40卒)     | 内科学第1            |
| 安田耕作 (昭42卒)     | 泌尿器科学            |
| 大沼直躬 (昭42卒)     | 小児外科学            |
| 河野陽一 (昭48卒)     | 小児科学             |
| 伊丹 純 (昭55卒)     | 放射線医学            |
| 城戸照彦 (昭54金沢大卒)  | 衛生学              |
| 田村 泰 (昭40阪大卒)   | 内科学第2            |
| (他大学の助教教授へ昇任)   |                  |
| 武田憲夫 (昭51卒)     | 富山医大 眼科学         |